

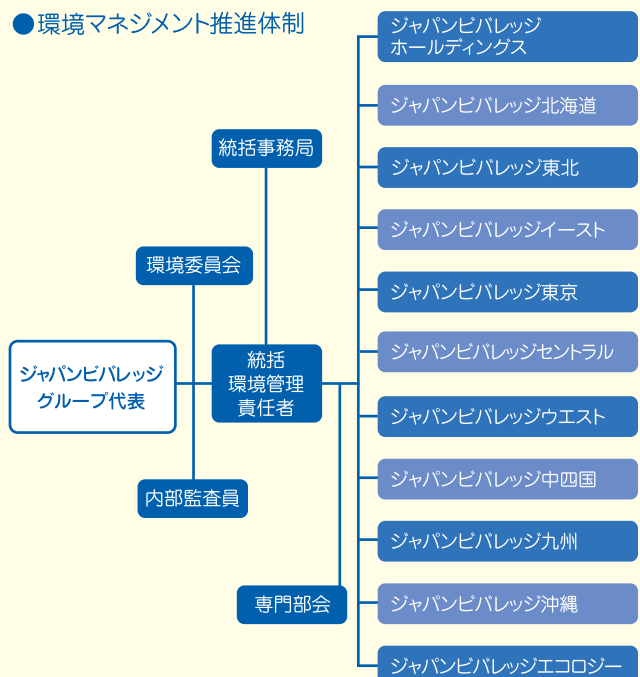
環境マネジメント&パフォーマンス報告

環境マネジメントシステム

ジャパンビバレッジの環境マネジメントシステムを継続的に推進するため、組織、役割および責任を定めています。

現在は、グループ11社の本社・支店の合計121サイトで運用を行っています。

● 環境マネジメント推進体制



※ジェイビーサービス、日新サービス、エースターは除く

ISO14001定期・規格移行審査

2017年度は定期・規格移行審査を9月12～15日の日程で実施しました。17サイトに審査が入り、無事認証継続が決定しています。



ISO14001定期・規格移行審査の様子

ISO14001規格改訂への対応

ISO14001の規格が2004年版から2015年版に改訂されたことに伴い、ジャパンビバレッジも2017年度より2015年版に運用を移行しています。移行内容については全国9ヶ所にて環境管理者研修を行い、運用変更点などを周知しました。



環境管理者研修

法令順守 廃棄物処理法への対応

2017年10月に廃棄物処理法が改正され、水銀を含む廃棄物への管理内容が強化されました。ジャパンビバレッジは「蛍光灯」の排出が該当しますので、全社で対応しています。また、排出者の責任として廃棄物がきちんと処理されているかどうか、廃棄物処理業者の現地確認を年1回実施しています。



現地確認の様子

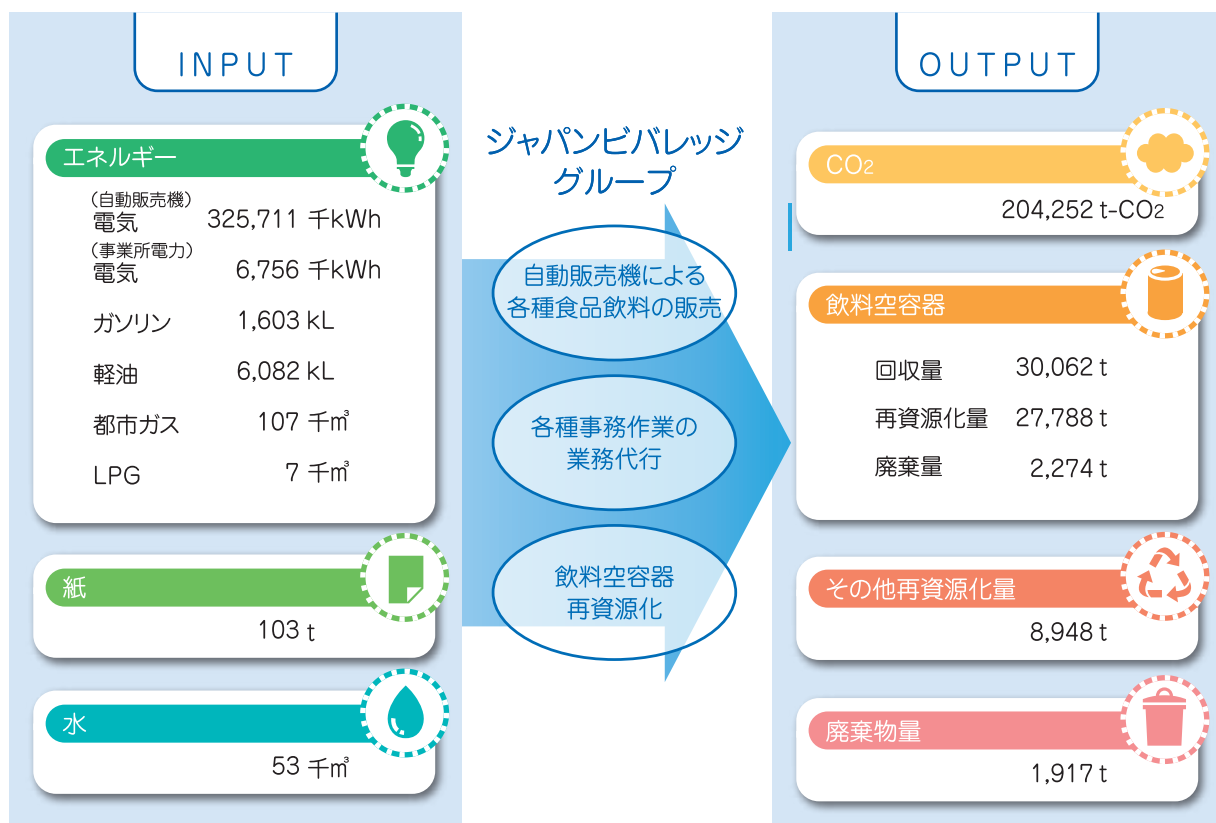
環境マネジメント&パフォーマンス報告

環境目標と実績

ジャパンビバレッジグループは、「グリーン・オペレーション」をテーマに掲げ、環境活動を行っています。2017年度は、3つの環境目標を掲げ取り組みました。結果は以下の通り、2つの目標を達成することができました。特に商品廃棄本数の削減は123.8%の達成となり、廃棄重量にすると117t削減できました。大幅な廃棄物発生抑制ができております。

項 目	目 標 値	目標達成率	評 価
① 自動販売機・マルチドリンクサーバー・ コーヒーマシン1台あたりにかかる CO ₂ 排出量の削減	2016年度比5%削減	99.9%	×
② 商品廃棄本数の削減	2016年度比5%削減	123.8%	○
③ 所内省エネの実施 (各部署にて省エネ実施事項を 定め取組む)	グループ全体の 消費電力量を 2016年度比1%削減	104.0%	○

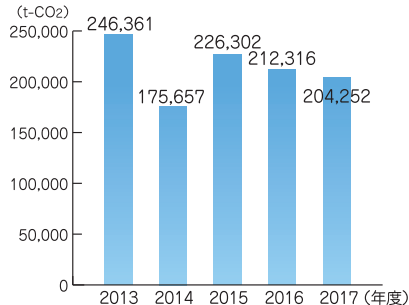
事業活動における資源投入量と排出量



(二酸化炭素の算出方法について)「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく換算係数を適用

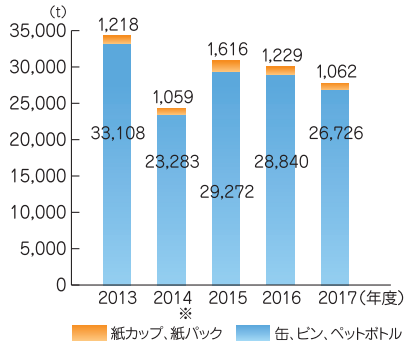


CO₂排出量推移

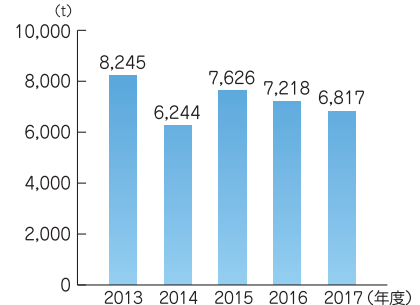


※2014年度は9か月間の数値となっております。

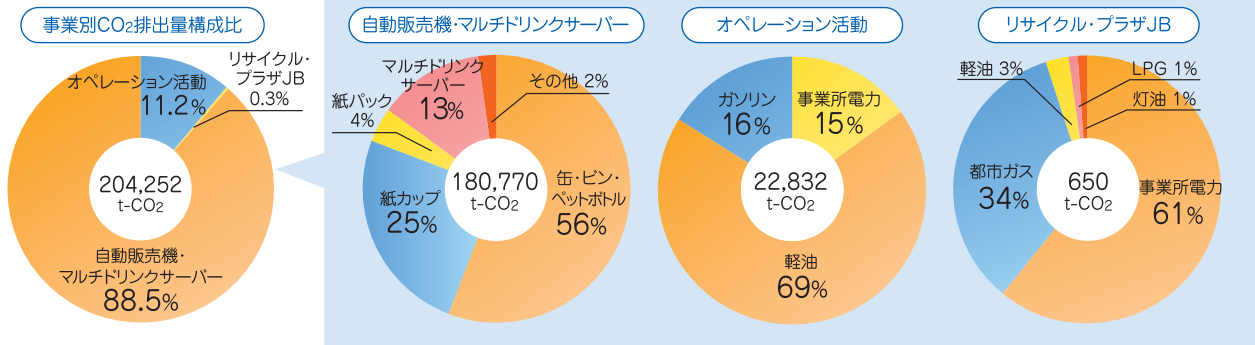
再資源化処理量推移 (ジャパンビバレッジグループ全体)



再資源化処理量推移 (リサイクル・プラザJB)



2017年度事業別CO₂排出量構成比



第三者意見



慶應義塾大学経済学部 教授
細田 衛士氏

EUは循環経済(日本でいう循環型社会)の構築を急ぎ足で進めている。2030年までに都市ごみ(家庭系のごみ)では65%、包装廃棄物では75%のリサイクル率達成というのが共通目標だ。これと比べると日本の政策展開は遅い。どうしたものか。

ここは民間事業者の主導で循環経済を作るしかない。特に容器包装類は資源循環政策の主要ターゲットであり、ジャパン

ビバレッジのような事業者の役割が大いに期待されるところだ。業界No.1の自動販売機オペレーターであるジャパンビバレッジは、環境対応力でも業界No.1であることが求められる。この点グリーン・オペレーションは一貫した資源循環のオペレーションであり大いに評価できる。自動販売機の導入から廃棄まで、つまり川上から川下まで責任をもって環境配慮対応できるところが強みだ。

こうした努力の結果はどうだろうか。商品廃棄本数の削減や所内の省エネは見事に目標を達成した。残念ながら自動販売機・マルチドリンクサーバー等1台あたりのCO₂排出量は0.1%ポイント目標に足りなかった。0.1%ポイントであれ未達は未達として認識する事は重要だ。次期には是非目標を達成して欲しい。

環境出前授業や作文コンクール、地域

清掃活動などの社会貢献は今後一層の展開が望めそう。加えて、女性が生き生きと活躍できる職場環境作りも大いに期待できる。経済・社会・環境、どれをとってもジャパンビバレッジが業界No.1であることを強く望んでいる。

PROFILE

慶應義塾大学経済学部卒業後、同大学院にて経済学研究科博士課程単位取得。1994年より現職。専門は「環境経済学」「理論経済学」。経済産業省 産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会委員、環境省 中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会委員などを歴任。環境保全功労者賞(2006年)、環境科学会学会賞(2016年)受賞。

著書に「グッズとパズルの経済学—循環型社会の基本原理解」(東洋経済新報社)、「資源の循環利用とはなにか パズをグッズに変える新しい経済システム」(岩波書店)など多数。